

ま と め

長谷川 洋（京大理）

第一回東京夏の学校と同様今回も物性研究誌上をお借りして事務報告と各講義内容の要約をさせていただきました。要約は、原則としてそれを担当された方々の載量にお任せし、場合によつては客観点を再現、場合によつては主観的な記述になりましたがそれでよいと考えています。講義あとの質疑応答は国際夏の学校にふさわしい価値の高いもので、他に記録の機会がない以上、是非ここに収録したかつたのですが果せませんでした。（一例として秋元さんと協力して記録したJ.C.Phillips との discussion を御覧下さい。）Bok, Hopfield, Phillips, Haken の四氏は早い時期に原稿がとどき、要約に便宜を得ました。M.Lax 氏の講義内容は数学的に高度なものでこれを追うことが出来ませんでした。御諒承下さい。国内からの二講師（豊沢、黒沢両先生）の分については御自分に要約していただくのが最も徹底するという見地から御多忙中の時間を割いて原稿を書いていただきました。ここに誌上をお借りして感謝の意を表します。最後に本年度夏の学校組織委員として録音を担当された方々と要約を担当された方々にお礼を申し上げます。